

北海道社会科教育連盟研究主題概要

130511

平成25～27年継続研究

研究主題

自ら参画し、たくましく生き抜く北国の子の育成

研究副主題

確かな「見方や考え方」を鍛える授業

研究主題

自ら参画し、たくましく生き抜く北国の子の育成

たくましく生き抜く 一人一人の姿として

「生きる力」から「生き抜く力」へ

- ・大きな災害が起きたとき、生き残った人間はそれまで以上に強く生き抜いていく決意を固めなくてはならない。
- ・これまで以上にしっかりとした教育をして、一人一人が強く生き抜いていける子どもを育てることが大切。
- ・東日本大震災を経ての未来の展望。
- ・来るべき高齢化社会に向けて。
- ・不景気と先行き不透明な時代～現状を打破し、未来への希望を。
- ・竹島、尖閣諸島、北方領土問題……国際関係の複雑さ。今こそ「国土」についてのしっかりとした見方や考え方を。

生き抜くということは決して誰かを出し抜くのではない。困難な時代を生き抜く知恵を身に付け、判断力・行動力を育てていくという意味を込めている。

北海道社会科教育連盟らしさ……人間性の育成

- ・人間性に軸を置いたテーマをずっと持ち続けていること、社会科を通して人間性を育てるという考え方をもっている北海道社会科教育連盟。
- ・人の営みを教材化する意味……人の営みに憧れをもって、地域に誇りをもつ人間性を育てることが社連らしさを際立たせる。
- ・われわれは時代の拘束や潮流に対しても、その人間尊重の精神を燃やし続け、正義を愛し平和と自由を打ち立てる同士として行動しよう(連盟綱領)

自ら参画し

育てたい子どもの姿

参画の位置付け→研究の深化を図る

参画のとらえは前三ヶ年と変わらない。
研究の深化を図るために「自ら参画し」とした。

○参画社会の構築

参画とは『「行政がよびかけるから、それに応えて私も参加します」というような意味ではない。「各々の人が社会のために何ができるかを考えて、自ら行動を起こしましょう」という意味なのである。』

○より一層重視する

- ・主体性をもって「参画」に向かう子どもの姿を明らかにする。

北海道価値の発信

北海道各地区の総力を結集して

北海道から発信する「北海道価値」

「厳しい時代にこそ北海道価値を国内外に発信して未来を拓きたい」

「雪や寒さは宝である」という見方や考え方

- ・困難さや厳しさへの着目。
- ・厳しさを克服している営みに着目。
- ・自然の恵みを生かし、今まで気が付かなかったものを価値に変えている事実への着目。

「問題解決的な学習を正しく発展させる」

社連が創立時より一貫して主張してきた「問題解決的な学習を正しく発展させる」という理念に、今一度立ち返る。

確かな「見方や考え方」を鍛える授業

各地区が『確かな「見方や考え方」を鍛える授業』を提案。

「見方や考え方」の具体を「授業」で明らかにする

社会的な見方や考え方を養う

「社会的な見方や考え方」を方法面と内容面の両面から明らかにする。

方法面・子どもたちに身に付けてほしい力（方法や、手続きとしての見方や考え方）

社会的事象の意味を以下の5つの力を通して考える力を鍛える。

1. 「比較・関連・総合」して見たり考えたりすること。
2. 「空間的、時間的」に見たり考えたりすること。
3. 「公正」に見たり考えたりすること。
4. 「多面的・多角的」に見たり考えたりすること。
5. 「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の視点から見たり考えたりすること。

内容面・教材を通して身につけさせたい知識

（方法や、手続きを使ってえられる概念的知識としての見方や考え方）

1. 一般的普遍性のある知識。
 2. 他の事例にも応用性、転用性のある知識。
- 問題解決的な学習を一層充実させる中で社会的な見方や考え方を鍛えていく。

確かな

確かな力を付ける教材化を

- ・「面白い」を追究するあまり、どんな力が付く授業なのかがはっきりしない教材化は今後もしない。
- ・確かな力を付ける教材化
 - ・社連の財産の活用
 - ・追試
 - ・教科書の活用

授業の後半場面をクローズアップする

- ・授業の後半「確かにする場」で子どもたちの見方や考え方を明らかにする授業を。
- ・身近な生活の中にあるものを取り上げたり、経験を話させたりすれば興味をもつはずという事から疑い、学びを「確かに」する事はどういう事か考える。

鍛える・・・全道一丸とな って取り組みたい

変容が見える授業

「事実認識」から「関係認識」をとらえ、さらに社会事象がもつ意味を考える「社会認識」を鍛えたい。

子どもが一時間でどう変容するかがしっかり見える学習を積み重ねる事で見方や考え方を鍛えていく。

鍛えた「具体」が見える 鍛えたあとの「具体」を想定する。

どのように子どもを鍛えたのか、各地区から発信してほしい。
鍛えたあとには、どのように「具体」として表れるのか、各地区から発信してほしい。

そして、その鍛えようとした子どもの姿は妥当なのか、想定した具体は妥当なのかを全道大会で検討する3年間にしたい。

全道が同じ方向性をもって授業を考える3年間に 「確かな見方や考え方を鍛える授業」の確立に向けた1年目の重点

授業の後半場面に重点を置いた授業づくり

- ・角度や方向を変える
- ・見方や考え方を高める「確かにする場」
- ・45分の中で子どもの変容が見える授業